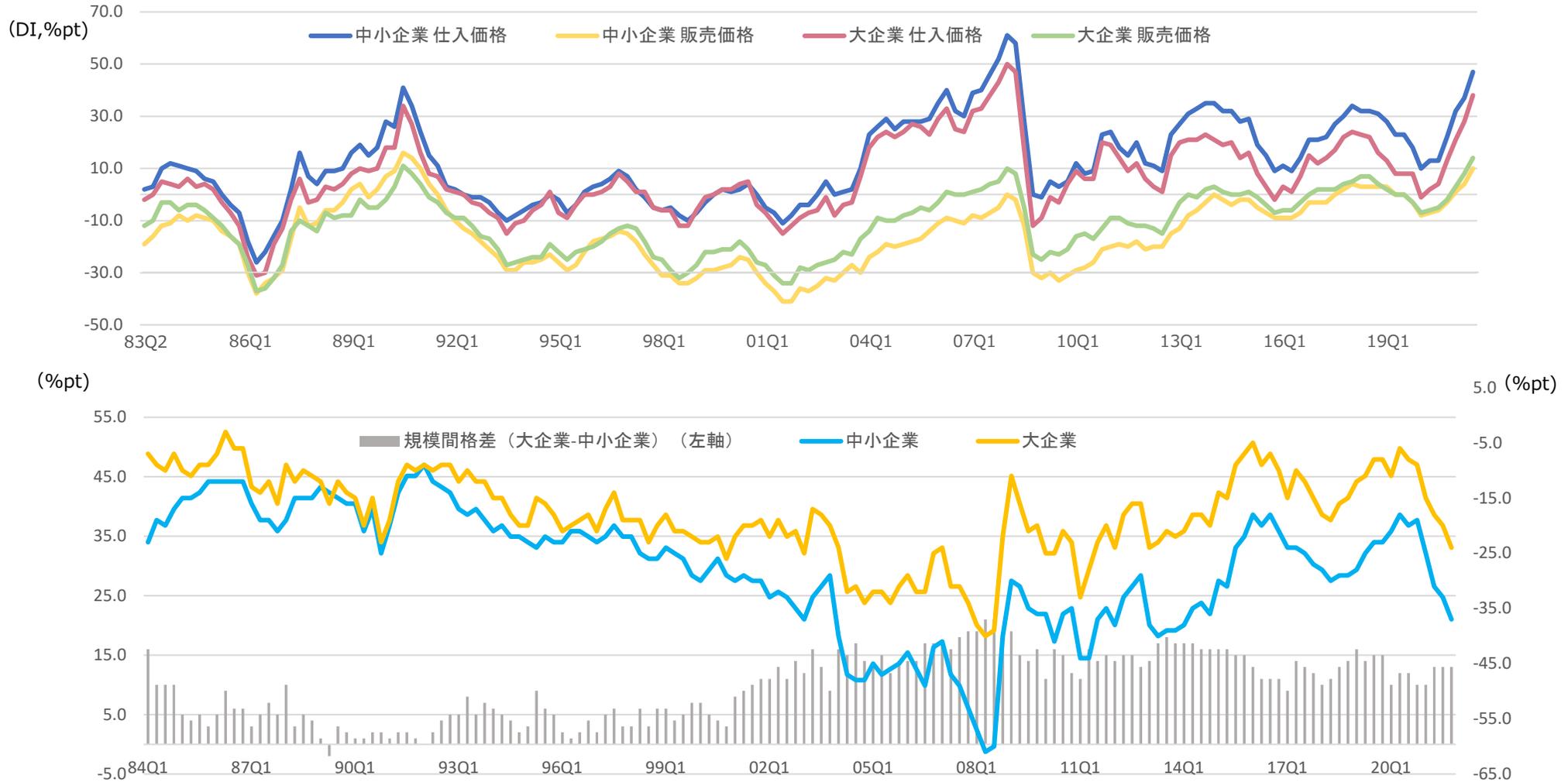


仕入価格D I・販売価格D I・交易条件指数の推移

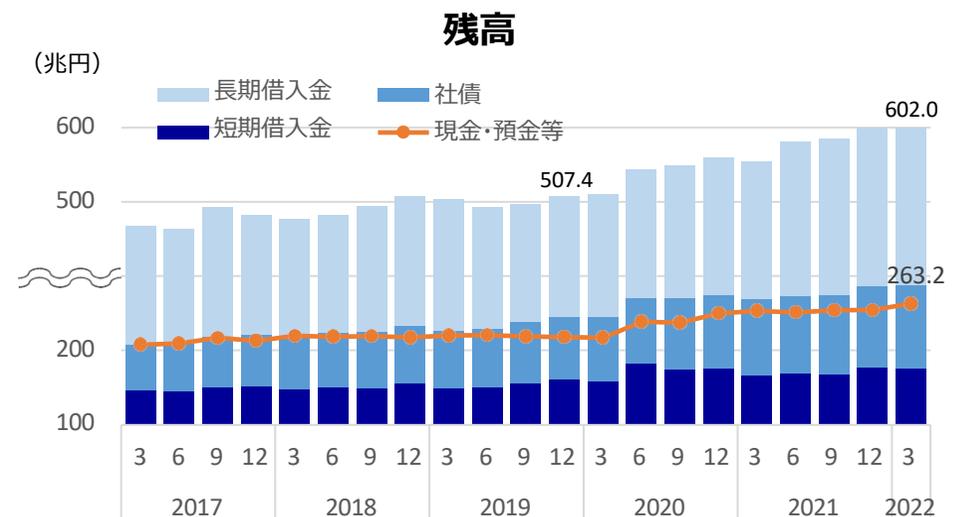
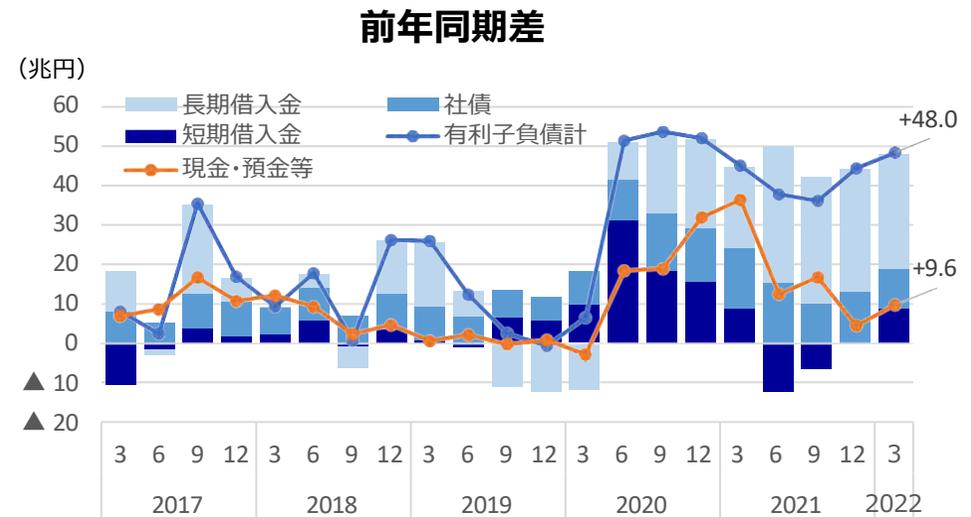
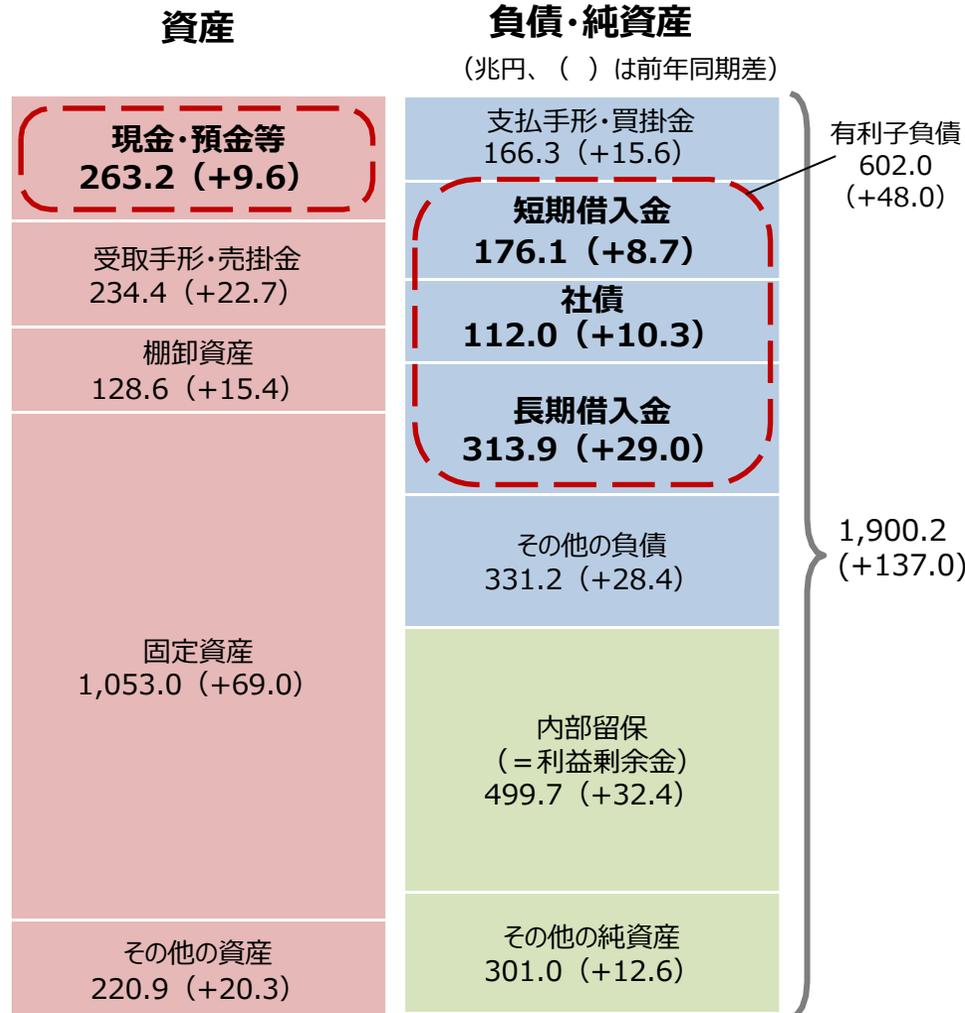
- 2020年下半期からは仕入価格DI、販売価格DI共に上昇に再び転じており、2021年に入ってから急激に上昇している。
- 交易条件指数の推移について見ると、足元では仕入価格DIの上昇が販売価格DIの上昇よりも大きいため、交易条件指数は悪化の傾向にある。



(注1) ここでいう大企業とは、資本金10億円以上の企業、中小企業は資本金2千万円以上1億円未満の企業をいう。
 (注2) 仕入価格DIは、回答企業の主要原材料購入価格又は主要商品の仕入価格が前期と比べ、「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を引いたもの。
 (注3) 販売価格DIは、回答企業の主要製品・サービスの販売価格が前期と比べ、「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を引いたもの。
 (注4) 交易条件指数とは、販売価格DIから仕入価格DIを差し引いたものとする。
 (注5) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」
 (出典) 中小企業庁「2022年度版 中小企業白書」

企業のバランスシート（令和4年3月末時点）

- コロナ禍において、企業は資金繰り悪化への対応や手元資金の積み増しに動いたとみられ、**有利子負債が大幅に増加してきた**。
内訳をみると、**短期借入金から長期借入金にシフトしていたが、足下では短期借入金も増加している**。
- 手元資金確保の結果として、**企業の現金・預金も増加してきたが、足下では増加ペースは鈍化傾向**にある。



(注) 金融業、保険業を除く。
(出典) 財務省「法人企業統計調査」(季報)